

| | |
|---------|--|
| モデル事業名 | 公共交通の維持・活用を核とした集落機能維持推進事業 |
| 活動団体名 | かきおかしこうきょうこうつう いじ かつよう かく しゅうらくきのうい じすいしんきょうぎかい 笠岡市公共交通の維持・活用を核とした集落機能維持推進協議会 |
| ホームページ | ありません |
| 所属／担当者名 | 事務局担当 (特)NPO 支援全国地域活性化協議会 吉戸 勝 |
| 連絡先 | 03-3263-3861 Tokyo@arigatou-net.jp |
| 活動地域 | 岡山県笠岡市神島地区 |

- ・神島は、離島であったが干拓により地続きとなっており、神島（内浦）と神島外浦の2つの自治会から成っている。
- ・人口減少と高齢化が顕著であり、人口が5年間で8%減少し、高齢化率は44%。地域の活気が失われつつある。
- ・JR笠岡駅からの路線バスがあるものの、1日6便であり、運賃は約520円。利便性が低いことから、一部の子供や高齢者が乗るに留まり、廃止が懸念されている。
- ・資源としては、水と緑の調和した豊かな自然、地域外から人の訪れる資源としては、「神島八十八ヶ所巡り」がある。



【廃止が懸念されるバス】



【神島大師堂より】

【位置図】

● 活動地域の課題

- ・現在は、架橋や干拓地を通じて本土と陸続きとなっているものの独立したコミュニティが形成されている神島地区では、特に生活サービス機能として公共交通の確保が大きなテーマとなっている。
- ・昨年度、本モデル事業に採択いただき、公共交通の維持・活用を核に集落機能の維持・推進を図ったところであるが、ワークショップと社会実験を行った結果、地域住民の意識・行動力が十分には広がっていないことが分かり、意識啓発を充実させ、集落機能の維持や集落づくり活動への参画を促すことが必要不可欠との結論を得た。

● 活動の内容

- ・平成20年度
 - ①住民アンケート
 - ②公共交通のあり方検討ワークショップ
 - ③公共交通の充実に向けた運行
- ・平成21年度
 - ①「神島点検マップ」の作成
地域住民の多くの間で薄れつつある神島に対する愛着を呼び起こすため、地域住民自らが歩いて「資源と課題」について点検してまわり、「点検マップ」を作成する。
 - ②神島八十八ヶ所巡り巡礼者に対する地区としての「お接待」の展開
地域住民が地域に対して誇りを持つとともに、巡礼者が神島に愛着を感じて再び多く訪れてもらえるよう、神島に訪れる都市住民（巡礼者）に対して、巡礼コースの先々で地域住民が「お接待」を行う。
 - ③公共交通の充実に向けた検討
前年度立案した公共交通の充実化に向けた提言内容について検証し、バス事業者との協議を行いながら本格的な見直し方法について検討する。
 - ④今後の地域づくりのあり方と進め方の検討（ワークショップ）
「点検マップ」の作成過程で出た各種アイデアについて話すとともに、お接待の効果や取組み方法、バスの運行形態の見直しについて議論するため、ワークショップ手法にて会議を行い、これからの実現化方策を見出して共有する。

● 活動の成果

・平成20年度

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

①住民アンケート

中学生以上の全住民にアンケートを行い、地域住民のバスや地域に対する思いを把握できた。高齢者の買い物・通院需要が多い一方で、若者や壮年層はほとんどバスに乗らないことがわかった。また、神島に対する思いも、若者・壮年層で弱く、問題であることがわかった。

②公共交通のあり方検討ワークショップ

地域住民で、公共交通を利用するために必要な取組みを検討した。人それぞれにニーズが異なり、一元化してもらうことの難しさが伺われたとともに、住民が神島に愛着を感じないかぎり、公共交通を利用してあげようという気が起こらず、事業が成り立たなくなっているという側面が伺われた。

③公共交通の充実に向けた運行実験

タクシーを貸し切り、3週間にわたって事前電話予約型の公共交通を実験的に運行してみた。

結果、デマンド型は成立しづらいことが判明した。



【試行したデマンド型バス】

・平成21年度

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

①「神島点検マップ」の作成

地域住民自らが歩いて点検したことで、神島のすばらしさを再認識したとともに、情報が共有されておらず歴史の継承に支障が出るおそれがあるなどの課題が見つかった。

点検マップから資源を抽出して清書し、観光マップの作成に取り組んでいる。

②神島八十八ヶ所巡り巡礼者に対する地区としての「お接待」の展開

地域住民が4回にわたってお接待を行っている。協力した地区・住民の間で、地域に対して誇りを持つとともに、巡礼者とのコミュニケーションが進むようになった。次回、3月6日にも実施を予定している。

③公共交通の充実に向けた検討

前年度立案した公共交通の充実化に向けた提言内容について検証し、バス事業者と協議した。結果として、見直しの方向が見出され、次年度以降のバス事業者との連携の姿も見えつつある。



【お接待の様様】

● 今後の課題及び展望

・課題

○「お接待事業」については、地区としての継続的な取り組みとしていくために、以下の事項が必要。

- ・事業費の確保による継続化
- ・協力者の拡大（限られた地区、限られた人ではなく。）
- ・ビジネスとしての発展（みやげ産業、飲食など）

○公共交通については、現在のバスの運行形態の見直しに向けて運行会社と調整していくこととなった。ただし、住民一丸となつての行動や、自動車からバスへのシフトなどはなかなか進まず、経営の安定化に向けた協力意識の醸成については今後積極的に取り組む必要がある。

・展望

○「お接待事業」については、事業継続と多少の収益の確保、「神島」の売り出しに向けて、検討と実践を行う。特に、観光マップを活用した「八十八ヶ所スタンプラリー」やみやげ物開発等に取り組んで行きながら、地区住民全体の認識ややる気を高めていく。

○公共交通については、現在のバスの運行形態の見直しに向けて運行会社と調整していくこととなった。並行して、住民の協力意識の醸成を図る。